

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 雌の生殖路における精子機能調節機構
2. 研究代表者： 宮田 治彦（大阪大学 微生物病研究所 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、雌の生殖路における受精の可視化や精子機能調節因子の探索など、体内受精に焦点を絞った研究を展開し、「in vivo 受精」の理解を目指すものである。

フェーズ1ではライブイメージング技術による雌の生殖路内の精子移行の観察や、精子機能を促進する分子の探索に必要なノックアウトマウスの作製に成功しており、研究計画に沿って概ね順調に進捗している。フェーズ2の研究計画においては、フェーズ1を踏まえ、精子機能を可視化するトランスジェニックマウスの作製や、雌の生殖路内に分泌される分子の機能解析など、「in vivo 受精」のさらなる理解を目指す計画となっている。精子機能促進因子の同定まで達成できれば極めて大きな成果となるため研究を進め、険しい道のりとは思われるが将来的にはヒトへの応用を期待する。

以上